



Up and About in Higashikawa Donna Lampa

I have managed to explore a little bit of Higashikawa since I got here. I know there's still so much more to see and try in the coming months, but I think I've experienced enough to say it's my good fortune that I got placed in this town.

It was my first time to take part in an Omikoshi festival when the town held one in August, and it was good fun to feast on delicious food after carrying the heavy shrine on one's shoulder with other Omikoshi carriers. I've never seen a group so passionate about making those lucky bells ring!

I had a relaxing time at this year's Hagaromo Music and Kitoshi Festivals, and I've been delighted countless times by my finds at the Michikusakan Station. I'm sure you're used to enjoying them every year, but the bento boxes, sweet corn, and fresh edemame still excite me! My feet have also brought me to the Photo Gallery and the Higashikawa Arts Exchange Center, and I also regularly check out the pictures in the street gallery right outside the town hall. I'm sure by the time this article sees print, I would've already been to the Higashikawa Museum as well.

I've also seen parts of Asahikawa, Higashikagura, and Biei, but Sapporo City is the farthest I've been to. I went once for the orientation for new JETs, a second time for the Autumn Fest in Odori Park, and a third time to attend this lecture on team teaching where I picked up practical strategies for teaching English. I'm now trying to see how I can keep challenging my students while providing them with enough support to succeed in learning a second language.

Personally, though, Hagaromo Park still tops my list. It's beautifully serene most days, but whenever children run around the park and fill the air with their laughter, I also find myself smiling and thinking that they are right about how this town makes it easy to find a reason to be happy.

【ちょっと豆知識】宮地晶子

second language (第二外国語) という言葉が出ました。例えば英語を母国語としない人が、英語を公用語とする国や地域で英語を学ぶ時に使います。教室で学んだことをすぐ日常生活で試せる環境ということです。日本の場合、英語は公用語ではなく、foreign (フォーリン) language (外国語) です。foreign には「異質の」「相いれない」という意味があります。日本で英語を教えることの難しさを実感する言葉です。

東川を闊歩(かつぽ)する ドナ・ランパ

(訳:宮地晶子)

町に来てから、あれこれ行ってみました。まだまだ見所もやることもあるとは思いますが、まずは「この町でよかった」と十分運の良さを語れるくらいです。

8月には祭りでおみこしを担ぎました。その後、みんなで食べたご馳走はおいしかったし、あんなに神社の鐘を一生懸命鳴らす人を初めて見ました。

羽衣音楽祭やキトウシのお祭りではのんびりし、道草館では限りなくうれしい発見がありました。皆さんにとっては恒例でも、お弁当にとうもろこし、新鮮な枝豆、と私は今だにわくわくです。

文化ギャラリーや文化芸術交流センターにも行きました。役場外のストリートギャラリーの写真も定期的にチェックしています。この広報が出るころには、郷土館にも行っているでしょう。

旭川や東神楽、美瑛、一番遠くでは札幌まで行きました。一度目はJETプログラム新規参加者のためのオリエンテーション、二度目は大通り公園のオータムフェスト、三度目はチームティーチングの講義に出席するためです。この時は実践的な英語指導法を学びました。生徒が(※)第二外国語の習得ができるよう、十分なサポートをしつつ、やる気を出させる方法を模索中です。

私のリストのトップを飾るのは、やはり羽衣公園でしょう。ほぼいつも変わらず、美しくてのどか。子ども達が走り回ると、笑い声でいっぱいになります。思わず笑顔になって思うことは、「幸せな気分になる町だなあ」ってことです。

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第144回

漢字を英語に

漢字に対応する英語を全部1対1で覚えるまで英語は話せない、と思ひ込んでいませんか。

例えば「寒がり」という言葉は寒がり、「恐がり」はまた別、「涙もろい」はまた別の単語という具合。でもそれでは覚える単語が多すぎますよね。ところがこれはeasily (イーザイリー) (簡単に) という言葉1つを使い回して、「get cold easily」「get scared easily」「cry easily」と簡単

に言えてしまいます。

そんなやり方を教えてくれるのは、NHKラジオ第二放送の「ポキャブライダー」という語学番組。毎日たったの5分間。私は夕食を作りながら聞いています。(月～金曜日の毎日午前9時5分から放送、午後3回と土、日曜日に再放送)

先日、たまたま家にいた娘が聞いて「この番組良いね。みんなに聞かせてあげたい。みんな漢字をそのまま英語にしようとして困ってるから」というので意を強くしました。私も通訳する時は、どうしても覚えなれないといけない専門的な言葉以外、すべてこの「言い換え」を使っています。シンプルな英語表現がすぐ口をついて出るようなトレーニングをしておけば、あとは言い換えで十分通じます。

で、この「ポキャブライダー」の後に引き続きすぐ放送しているのが「英会話タイムトライアル」。こちらもテンポ良く、おもしろい番組です。